

令和３年度茨城県立笠間高等学校自己評価表

目指す学校像	○あいさつや礼儀を尊び、誠実な人間を育てる学校 ○常に勤勉な態度を養い、職業人として必要な学力を育てる学校 ○自主自律の精神を育み、一人一人の進路希望を実現する学校 ○普通科、美術科・メディア芸術科が切磋琢磨し、教育の質を高められる学校				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
【成果】 ・授業におけるアクティブ・ラーニングの定着が図られつつある。 ・進学希望者の 99%が進学を決定し、就職希望者の 98%が就職を決定した。 ・国公立大学 3 名を含む 26 名が大学に合格した。そのため、国公立大学合格者が 12 年連続となった。 ・登校指導や服装頭髪指導の徹底により、身だしなみの乱れは少なく、落ち着いた学校生活が送れている。 ・「道の市」「笠高キッズ」「笠間浪漫」などの地域連携行事や笠間駅周辺の清掃ボランティア活動等に参加する生徒が増えてきている。 【課題】 ・中学校段階までの基礎学力の定着が不十分な生徒や、特別な支援を必要とする生徒がいる。 ・進学希望者に対する、教育課程編成を含む進学指導体制の充実が必要である。 ・心の問題を抱える生徒が少なからずいるため、スクールカウンセラーの活用等による教育相談の充実が必要である。 ・1 年生は夏休み終了まで全員部加入を行っているが、その後の部活動の定着率があまり高くない。	基礎学力の定着及び学力の向上に向けた取組の充実と、特別な支援を必要とする生徒への支援体制の整備	①アクティブ・ラーニングを中心とした授業形態の工夫・改善を積極的に行うことにより、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	B	A	
		②生徒の興味関心を引き寄せる授業や I C T（電子黒板等）を活用した授業等、日々研鑽した授業を展開することにより、授業の楽しさを伝え、学習習慣の確立や学力の向上を図る。	A		
		③家庭や関係機関との密な連携や情報の共有化を通して、特別な支援を必要とする生徒への学習支援や適切な対応に努める。	A		
	問題行動の未然防止や新たな課題への迅速な対応及び家庭や地域等との連携の強化	④個に応じたきめ細かな指導を行うとともに教育相談体制の充実を図る。また、学年間、教員間での統一した生徒指導を行うことにより、非行やいじめの未然防止を始め、S N Sトラブルやスマホ利用をめぐる問題や課題にも迅速に対応する。	B	A	
		⑤家庭、地域社会及び関係機関との連携強化を図るとともに、情報共有のもと協力して生徒指導を行う。	A		
	主体的な進路選択と、その実現のための具体的道筋を考え、行動する意識と態度の育成	⑥3年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施することで、望ましい勤労観・職業観、進学や就職に対応できる力を育成する。	A	A	
		⑦インターンシップや各種講話、「チャレンジ・プロジェクト」に係る取組等を通して主体性を育み、進路実現のための意識と態度の育成を図る。	A		
		⑧学習段階に応じて生徒の資格取得を推進し、進路実現に向けた指導を行う。1年に1資格、卒業までに3資格取得を目標とする。	B		
	心の教育の推進と特別活動の充実	⑨奉仕活動、異校種学校との交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援し、心の教育の充実と生徒の社会性の確立に努める。	B	B	
		⑩部活動や生徒会活動への主体的、積極的な参加を促し、生徒の活力を引き出すとともに、礼節や規律を重んずる態度を養うことで、豊かな人間性を育む。	A		
	美術科・メディア芸術科の教育活動の充実	⑪質の高い指導と様々な体験活動を通して、美術や映像メディアに関する技量を伸ばし、美術や映像メディア系大学への進学を実現させる。	B	B	
		⑫「チャレンジ・プロジェクト」に係る取組を通して、美術科とメディア芸術科の教育内容のさらなる体系化と充実を図る。	A		
		⑬美術科・メディア芸術科に関する教育活動の積極的な広報活動を行う。	B		
	地域からの期待と信頼に応えるための積極的な教育活動	⑭様々なメディアを通して、学習指導や生徒指導における実践と成果、生徒の課外活動の様子など、本校の教育活動についての情報発信に努める。	A	B	
		⑮特色ある学科を有する笠間高校の様子や未来像を、様々な機会をとらえて地域社会に発信することで、魅力ある学校づくりに資する。	B		
	働き方改革の推進	⑯業務改善と校務の効率化を図り、教育環境の整備と働きやすい職場環境づくりを行う。	B		

三つの方針		具体的目標	評価		次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標 「卒業までにこのような生徒を育てます」 ◇ 何事にも誠実に向き合い、挨拶や礼儀を尊び、職業人としての必要な力を有する人 ◇ これからの社会を自律した大人として、楽しく力強く自分らしく生きていける人 ◇ 地域に誇りと愛情を持ち、社会を動かして高めていく行動ができる人	B	B	卒業 までの 3 年間を見通した進路 目標の設定 と取り組む態度の育成
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標 「このようなことを学びます」 ◇ 共通： 3つの学科の高校として、多様な価値観を持つ生徒が学び合い切磋琢磨し合いながら、社会性・人間性を育てます。 ◇ 普通科： 体験活動や地域交流を通し、自ら課題を発見し、それを主体的に解決を図ろうとする力を養います。多様な目標の実現に向けて、インターンシップや検定への積極的チャレンジなどで社会で発揮できる力の基礎を高めます。 ◇ 美術科： 絵画、デザイン、陶芸の分野を専攻として、それぞれ専門家の教員からの実技指導を少人数編成授業で行います。自分の理想を求めて、作品制作に打ち込める環境において他の生徒と刺激し合いながら、自分らしさを表現する力を養います。 ◇ メディア芸術科： 映像、写真、CG の分野を専攻として、それぞれの専門家の教員からの実技指導を少人数編成授業で行います。表現力、創造力、豊かな感性を磨き、作品制作に打ち込める環境において他の生徒と刺激し合いながら、自分らしさを表現する力を養います。	A		普通科における特色の再構築及び美術科・メディア芸術科の連携と学科行事の充実
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標 「このような生徒を求めます」 ◇ 自らの可能性に向かって自分としっかり向き合い、物事に真剣に取り組む生徒 ◇ 多様な価値観に触れることで視野を広げ、自分の特性についての理解を深めたい生徒 ◇ 美術科・メディア芸術科： 美術の専門性を高めたい人、将来美術・メディアの分野で仕事をしたい人、作品制作が好きな人、美術・メディアの分野で社会貢献したい人、美術系・メディア系の大学の進学を志望する人	B		ホームページや学校説明会を通じ、入学希望者や中学校関係者に対し、本校 が 求める生徒像を明示

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	授業規律と学ぶ姿勢の確立	・学習課題を期限内に提出させ、なおかつ授業ルールの徹底を図る。②③	B	B	・T Tシステムを活かした基礎学力の向上。 ・正しい言葉遣いを身につけさせることを目的とした日本語検定の活用。 ・目標設定や具体的方策の再考察。 ・作文や小論文指導を行い、文章表現力を身につける。
		分かりやすい授業展開及び基礎学力の向上	・辞書や便覧、映像等の資料やI C T（電子黒板）の活用、意欲を活性化するワークシート作成及びグループ活動を通して、自主的な学びを促し、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。①②	B	B	
		進路実現を視野に入れた国語指導の充実	・漢字検定や日本語検定などの国語関連資格の取得を推進する。⑧	B	B	
			・明確に意思が伝わるような作文や小論文指導を行う。①⑥	B		
			・短歌・俳句・読書感想文などのコンクールへの参加や読書教育を通して表現力を養う。①	B		
	地歴公民	基礎的・基本的な学習内容の定着	・高校での学習内容の基礎となる義務教育段階の学習内容を定着させるため、小単元・学習内容に応じてスモールステップに基づく基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。①②	A	A	・次年度も継続して、ICT等を活用しながら、基礎学力の定着を図りたい。 ・ここ数年、社会系資格試験の受験者が落ち込んでいるため、社会科で連携して、資格取得にむけて生徒に促していきたい。
		学力向上のための指導方法の改善	・アクティブ・ラーニングやICTを適宜採り入れながら、生徒が主体的・対話的に学習に取り組む指導方法の展開に資する。①②	B	B	
		公民的資質の育成	・主権者教育・金融教育・租税教育・法教育などを通じて公民的資質を育成するとともに、社会的に有為な人物としての職業観・勤労観を育む。⑥⑦⑧⑨	A	A	
	数学	基礎学力の定着	・少人数編成授業を活用し、机間指導を充実させ、個々の生徒が達成感を味わえる授業を展開する。②	A	A	次年度も継続して、少人数編成授業及び課外の実施、ICT機器の活用を通して、基礎・基本の学力の定着と進路実現に向けた指導を充実させていきたい。
			・アクティブ・ラーニングやI C T機器を利用した授業を通して、一人一人が主体的に授業に参加できる授業を展開する。①②	B		
		進路実現に向けた指導	・入試問題や模擬試験の過去問など、発展的内容を取り入れながら進学課外を行い、進路実現の一助とする。⑧	A	B	
			・数学検定の実施と、それに対応した課外を充実させる。⑧	B		
	理科	自然現象への興味・関心を高める指導法の工夫・改善	・実験・観察など体験的な活動や視聴覚教材の活用などを通して、科学的思考を養う。①②	B	B	・実験・観察を積極的に行いたい。 ・授業内容に工夫をするだけでなく、積極的に補習を行い、基礎学力の定着を図りたい。
		基礎学力の定着	・授業改善等の工夫により生徒の学習意欲を向上させ、基本的な内容の確実な定着を図る。①	B	B	
		生徒の実態に応じた指導の展開	・発展的な内容を取り入れることで、上級学校への進学を目指す生徒にも対応する。②⑥	B		
			・教科書準拠の問題集や小テスト等を活用する。また、必要に応じて補習を行うことで、生徒一人一人に対応する。②③	B		
	保健体育	授業内容の充実と工夫・改善	・保健では学習形態の工夫やアクティブ・ラーニング、I C T機器を活用し、基礎的・基本的な事項の定着を図り、学習で得た知識・技能を実生活においても活用することができる授業を実践する。①②	B	B	・情報機器を準備した上で映像解析などを行い生徒個人の習熟に結び付けたい。 ・運動量の確保、集団行動を継続して行っていきたい。
			・体育実技では安全管理に気を配り授業に集中して参加する意識と態度を育てる。生徒同士の言語活動を充実させ、生徒が主体的に取り組めるように指導を工夫していく。①	A		
		体力・運動能力の向上	・体育実技では、運動量の確保に努めるとともに、種目の特性に触れ、個人及び集団の活動を通した課題学習の実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながる授業を実践する。①	A	A	
		指導と評価の一体化	・指導と評価の一体化を進めるとともに、評価の観点を明確にして目的意識を持たせながら意欲的に取り組ませる。授業の振り返りも兼ねてワークシートも活用する。①	A	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	芸術音楽	授業内容の充実と工夫・改善	・生徒が主体的に授業に参加できるよう、実態に即した教材の選択・精選を行う。①②	B	B	芸術を学ぶ根本の目的を具現化するために教師の指導力を高め、生徒一人一人が学びの充実感を感じられるように授業を工夫改善する。
			・言語活動の充実を図り、表現の工夫や感じ取ったことを思考・判断し、表現する力を高める。①②	B		
		指導に生かす評価の工夫	・評価の観点を確認にすることで関心・意欲を高め、目的意識をもたせながら学習に取り組ませる。①	B	B	
			・授業や実技発表での課題や反省を評価カード等に記入させ、指導に生かす。①②	B		
	芸術美術	授業の内容充実と工夫・改善	・生徒の興味関心を引き寄せ、美術の楽しさを伝える授業を実践する。①②	A	B	他学年・他学科と相互に鑑賞し合う機会を設け、美術を通じて交流する環境を整え、充実した活動になるよう工夫改善する。
			・文化祭等で校内展示を行い、美術科・メディア芸術科と互いに作品を鑑賞し合うことで、より充実した制作活動に繋がるように指導する。②⑬	B		
		指導に生かす評価の工夫	・ワークシート等を活用し、制作の過程を記録、発表、相互鑑賞させることで、主体的・対話的で深い学びの充実を図る。①	A	A	
	英語	基礎学力の定着と応用力の育成	・少人数授業の展開により基礎的知識や基礎的コミュニケーション能力を定着させるとともに、課外授業を通して上級学校進学に対応できる学力を身に付けさせる。①③	B	A	授業・課外・単語テスト・英検指導を通して、基礎的知識や基礎的コミュニケーション能力を定着させるとともに、上級学校進学に対応できる能力を身に付けられるように工夫改善する。
			・家庭学習の習慣を身に付けさせるために、単語演習やワークブックなどの課題を適宜出していく。③	A		
		指導内容の充実と工夫・改善	・補助教材やワークシート等の工夫を図り、個々の生徒の実態に応じた指導と支援に努める。①②③	A	B	
			・生徒全員が主体的に授業に参加できるよう、コミュニケーション活動などの表現活動を積極的に授業に取り入れるとともに、観点別評価方法の工夫・改善を図る。①②	B		
	家庭	生徒の実態に応じた指導法の工夫	・自作課題を作成し、ICTを活用し学ぶ内容のイメージが伝わりやすい授業を心掛け、楽しさを伝え、生徒の主体的取り組みを促す。①②③	B	A	・タブレットを活用し生徒が主体的に取り組める授業の研究に努める。 ・コロナ禍であっても実生活に役立つ技術力を身につけられる授業研究に努める。
			・コロナ禍におけるアクティブラーニングなどの指導法の工夫・改善を積極的に行うことで、生徒の思考力の伸長を図り、実生活で活用できる力を育てる。①②③	A		
			・補助教材、実物提示、ワークシートなどの充実を図り、興味・関心を高めさせる。①②③	A		
		実験・実習の充実	・10分の5程度の実験実習を取り入れ、TTの授業を活用したきめ細やかな指導を通して生活力や技術力を高める。①②	B	B	
			・被服製作や調理実習を通して、創造的に製作する態度や「本当に使える力」を見据えた技術の習得を目指す。①	B		
	情報	情報化社会に対応できる基礎的な情報活用能力と知識を身に付ける	・検索エンジンを利用した情報収集や、ワープロ・表計算・プレゼンソフトの基本的なパソコンスキルを身に付けさせるとともに、新たに導入される学習者用端末の有効活用を推し進める。①②	B	B	・ICTを活用した教育の充実と、資格取得推進の働きかけをする。 ・新学習指導要領の理念を理解する。
			・身近な事例を取り入れ、著作権や個人情報の管理など、情報モラルの向上を図る。①	B		
		資格取得の奨励	・進路実現に向けた取り組みとして、ビジネス文書実務検定などの各種検定受験を奨励する。⑥⑧	B	B	
	商業	授業を分かりやすくするための工夫改善	・生徒の実態や能力に応じた学習支援や適切な対応に努める。①②③	A	A	・ICTを活用した教育の充実と、ビジネスマナーの定着、資格取得推進の働きかけをする。
			・ICTを活用し、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。②③	A		
		職場環境の変化に対応できる資質と能力の向上と資格取得の推進	・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。①②	B	B	
			・各種検定試験に対応した授業内容を取り入れ、資格取得を推進する。⑥⑧	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教 務	学力の向上と特別な支援を必要とする生徒への支援	・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ思考力・判断力・表現力の伸張を目指しアクティブ・ラーニングやICT機器を取り入れた授業が行えるよう環境整備に努める。①②③⑬	A	A	・ホームページの活用。 ・美術科・メディア芸術科の学校説明会の精選。 ・資格取得の推進。
		・支援を要する生徒に個別的・組織的対応ができるよう関係者の連携を図る。①②③⑬	A		
		・資格取得を推進し、学習に目的意識をもたせることで学習習慣の確立を図る。①⑥⑧	B		
	魅力ある学校づくりと積極的な情報発信	・ホームページ更新を学年・学科・部活動など多くの部署に促し、魅力ある学校づくり及び教育活動の情報発信し、美術科・メディア芸術科の周知を図り受検生の確保に努める。⑤⑫⑬⑭⑮	B	B	
	・奉仕活動、異校種間交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援する。⑨⑩	B			
生徒指導	基本的生活習慣の定着と規範意識の育成	・一人一人の生徒の特性を十分に理解して信頼関係を築き、生徒が自らの意志で学校や社会のきまりを守り、自己の言動や生活態度を律して、より好ましいものに高めようとする力を育み、安心して学校生活を送ることができる環境をつくる④⑤	B	A	・生徒が主体的に守ることができる校則の見直しを継続する。 ・特別な配慮を必要とする生徒の指導方法と連携体制を構築する。 ・自転車保険の加入者 100%を目指す。
		・保護者、学年内・外、スクールロイヤー、スクールカウンセラー、その他関係機関との連携を密にし、情報共有をはかり、統一した組織的かつきめ細かな生活指導を行う。④⑤	A		
	事故・問題行動の未然防止と教育相談のいっそうの充実	・いじめに向かわない生徒を育成するとともに、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを正確に認知し、防止等のための取り組みを行う。④⑤	A	A	
		・非行防止、交通安全、ネット安心安全利用教育等の講演会等を実施し、生徒の安全やスマホのマナーに対する意識を高めることで、事故・問題行動の未然防止を図る。④⑤	B		
		・教員が生徒面談に積極的に取組むとともに、SCやSSW、外部機関等の活用によって、教育相談および特別な指導が必要な生徒への指導をより充実させる。④⑤	A		
進路指導	3年間を見通したキャリア教育の推進	・外部講師や進路ガイダンスを積極的に活用し、進路に対する意識を高めるとともに、コミュニケーション能力を育成する。③⑦	A	A	・コロナ感染症の対策を徹底して、できるだけ進路の行事を実施し、生徒の進路決定に向けて意識付けをはかる。 ・資格の取得を推奨すると共に、進路資料室が有効に活用できるようさらに整備を進めていく。
		・企業や上級学校の見学、インターンシップ等の実体験を通して、進路に対して具体的なイメージを持たせる。③⑦	B		
	進路希望の実現	・生徒の進路選択の幅を広げるため、資格取得を推奨するとともに、基礎学力を定着させ、応用力を付けさせるための支援体制を強化する。⑧	A	A	
		・進路資料室を整備し、進路ハンドブックの内容を充実させ、進路実現に向けて、生徒が自主的かつ主体的に行動するよう促す。⑥	B		
保健厚生	生徒・職員の健康管理の充実および保健意識の高揚	・担任と連携し未受診の生徒を減らす。各種検診を通して自身の健康について理解を深め健康への意識を高める。④⑤	A	A	・防災避難訓練や性教育講話等の実施形態や内容について検討し、生徒がより自分事として考えられるよう促していく。 ・コロナ感染症対策の徹底を継続する。 ・生徒・職員が安全及び健康に学校生活を送れるように引き続き安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努める。
		・担任と連携し健康や衛生の重要性を再確認させるとともに、「保健だより」等を通して、生徒・職員一人一人の保健意識を高め、感染症、疾病の予防に努める。④⑤	A		
	学校環境の美化と整備	・校舎内外の自主的な清掃作業の習慣化に努める。⑨ ・生徒・職員が安全及び健康に学校生活を送れるように、定期的に安全点検を実施し安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努めていく。⑨⑬	A	A	
	防災教育の推進と防災意識の高揚	・地域と連携した防災訓練を実施し、震災などの非常時に適切な行動がとれるようにする。⑤ ・防災避難訓練の実施内容について検討し、非常時に適切な行動がとれるようにするとともに、防災意識をより高める。⑤	B	B	
特別活動	部活動の活性化	・顧問の適性や個性を活かし、生徒の積極的活動を促して部活動の活性化を図る。⑩	B	B	・コロナ禍での活動や行事計画・運営の工夫、新たな取り組み方の構築
		・部活動顧問会議などを通して、部活動の活性化と円滑な活動、及び適切な予算配分を進める。⑩	A		
	学校行事の生徒の自主的実践的参加	・生徒会を中心に、全校生徒が意識をもって行事の企画・運営ができるようにする。⑨⑩	B		
		・生徒の意見を積極的に取り入れ、学校行事の充実と活性化を図り、生徒の自主性を育む。⑨⑩	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
特別活動	ホームルーム活動を通し生徒の自己形成を図る	・LHRの年間指導計画を工夫し、LHR活動の時間を確保し充実させる。⑨⑩	B	B	・部活動の在り方や数・顧問の貼り付けの見直し
		・「キャリア・パスポート」を積極的に活用し、キャリア教育の充実を図る。⑩	B		
		・JRC部・生徒会を中心としたボランティア活動や、生徒の地域連携行事参加を進め、地域交流を図る。⑨⑩	B		
渉外	PTA活動の活性化と学校教育の理解	・コロナ禍の中、負担無くできるPTA活動を模索する。⑤⑬⑭	B	B	コロナ禍でのPTA組織・活動の在り方を模索する。
		・学校行事等の機会を通し、学校が抱える課題や現状を保護者に知らせ、保護者と教師の協力体制をつくる。③⑤⑬	B		
図書	図書館の整備・充実	・蔵書の点検を再度行い。図書管理能力の強化に努める②⑭	C	C	・「朝の読書」が新型コロナによる体調チェックで実現できなかったことから、読書の習慣をどのように定着させるか。 ・主体的に活動できる図書委員の育成。 ・適正な書籍購入、幅広い購入希望の情報の取り入れ。 ・予算の活用。 ・図書館利用者を増やす工夫。
		・職員・生徒の要望に合うよう、長期的展望に立った書籍購入計画を立てる。①②⑬	C		
		・図書館の装飾を含め読書環境の整備をし、利用しやすい図書館づくりに努める。②⑭	B		
	図書委員会の活性化	・迅速な貸借や、簡易レファレンスができるような図書当番の能力育成に努める。①⑥	B	B	
		・図書当番以外にも図書便りの発行、多くの生徒が訪れるような図書館の内装、蔵書点検など、自らの手で図書委員会を運営する自覚を持たせる。①⑥⑭⑮	B		
	「朝の読書」の充実・管理	・「朝の読書」の意義と、進んで活字文化を取り入れられる環境を整える。①②	C	B	
		・多くの本と出会えるよう学級文庫の入れ替えを積極的に行う。②	B		
事務	財務会計の適正な執行	・予算執行においては、各担当部署からの要望・内容を精査し、適正かつ計画的な予算執行を行う。特に、「笠間『輝き』プロジェクト」に係る予算においては、コロナ禍における活動制限が生じるため、担当者と連絡調整を適時行い、計画的な予算執行に努める。	A	A	学校全体の設備更新について、再計画を立てる。 施設の維持管理について速やかな対応を心掛け、生徒の活動に支障をきたすことの無いように努めていく。
		・財務会計規則等の諸規則に則り、適切な判断により、適正かつ効率的な執行を行う。	A		
	施設設備の適切な維持管理	・各担当部署の要望に基づき、備品の更新等を計画的かつ適正に行い、教育環境の整備に努める。	B	B	
		・安全な教育環境を保持するため、施設設備等の修繕・改修を速やかに行い、適正な対応に努める。	B		
	温室効果ガスの排出抑制と省エネ対策	・電気・ガス・水道量の記録管理を継続し、漏電漏水等の防止に努め、尚且つ省エネルギーの推進を行う。	B	B	
		・グリーン購入法の推進により、環境にやさしい製品の購入に努める。	A		
美術科	教育活動の充実と楽しい授業づくり	・生徒が意欲的に制作に取り組めるよう、授業内容や題材の工夫・改善を行う。①②⑩⑪	A	A	・コロナ禍でも生徒たちが主体となって広報活動できるような環境の整備を行う。 ・校外活動や地域と連携した活動の充実。
		・教員間で、生徒の実態に応じた指導方法を検討し、連携を取りながら実技指導を行う。①②③④⑤⑭	A		
	進路指導体制の充実	・早い段階から進路へ向けて意識を持つよう指導し、学年を越えて情報交換を行うことで一貫した進路指導を行い、主体的な進路の実現を目指す。③⑥⑪⑭	A	A	
	主体的な体験活動の充実	・地域連携行事等を充実させ、生徒が主体的に活動しながら美術の諸能力とコミュニケーション能力の育成に努める。⑨⑪⑫⑬	B	B	
	教育活動の積極的広報	・質の高い作品制作ができるよう指導方法の工夫をするとともに、生徒が主体となって作品を広報できるような環境を整える。⑫⑬⑭⑮	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
メディア 芸 術 科	教育活動の充実	・専門の授業での言語活動、表現力を高める授業形態の工夫・改善、地域交流活動等の内容充実など、授業と行事を体系化することによって、映像メディアにおける「伝える力」を伸長する。①②⑥⑦⑨⑪⑫⑬	B	B	・進路実現のために美術科や他教科の先生方と連携をしていく体制を整える。 ・学科行事（卒業制作展等）の充実を図る。
	教育活動の積極的広報	・ホームページによる情報発信を行うとともに、地域主催のコンクール等に積極的に応募したり、映像メディアを媒体とした広報活動に生徒を参画させたりして、メディア芸術科の周知と地域交流を進める。⑨⑬⑭⑮	B	B	
	進路の実現	・学習に対する目的意識を持たせることによって、進路実現に必要な学力及び技能・表現力を伸ばし、進路の実現を図る。①②⑥⑦⑪⑫	A	A	
1 学年	基礎学力の定着	・積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れ、ICTを活用し、生徒たちが主体的に学べる授業を展開する中で、基礎学力・思考力・表現力の定着・向上に努める。①②	B	B	・特別な指導を要する生徒への対応について、保護者、特別支援コーディネーターと連携し、各生徒に合った指導を構築する。 ・クロームブックの授業での使用に関して、使用頻度を増やし、使用領域を広げる。
	基本的生活習慣の確立	・保護者と連絡を密に取り、生徒の状況を把握し、極力欠席・遅刻をさせないよう指導し、特別な支援を必要とする場合は適切な対応をしていく。③④⑤	A	A	
		・学年間・教員間で統一した生徒指導を行い、生徒たちと丁寧に接しながら、他者を理解し、優しい心を持った生徒を育てていくように努める。④	A		
	非認知能力の向上	・総合的な探究の時間や「LIFE」、学校生活を通して、内発的に物事に取り組もうとする意欲の向上に努め、学習段階に応じた資格取得を推進する。⑥⑦⑧	B	B	
		・特別活動への積極的な参加を促し、ひとつのことに粘り強く取り組む力を向上させる。⑨⑩	B		
2 学年	基本的生活習慣の確立	・服装や時間を意識した生活を送り、笠間高校生としての誇りを持てる生徒の育成に努める。あわせて、社会の一員としての常識やマナーを身につけられるようにする。④⑥	B	B	・最高学年であるとともに「18歳成人」を自覚させ、遅刻・欠席のない基本的生活習慣の確立を支援する。 ・5教科以外にも一般常識ドリル等を活用し、基礎学力の定着を図る。学習にむかう態度・習慣の確立を促す。 ・校訓である「誠実・勤勉・自律」の行動ができる人材輩出に努める。
		・保護者との連携を密にし、生徒の状況把握に努める。また、報告・連絡・相談を習慣化する指導に努める。③④⑤	A		
	非認知能力の向上	・学校行事や部活動や奉仕活動等を通して、一つひとつのことに誠実に取り組み、やり抜く力や他者と協働する力を向上させる。また、自己と他者を共に尊重できる態度の育成に努める。⑦⑨⑩⑪⑫	A	A	
	進路に応じた基礎学力の確立	・アクティブ・ラーニングの手法や ICT を利用するなど授業等を工夫し、生徒が深く理解し、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるような指導に努める。①②	B	B	
		・各種進路行事、課外、資格取得、インターンシップなどを通して、充実感や向上心をもつことができるようにし、進路意識の育成に努める。⑥⑦⑧⑪⑫	A		
3 学年	基本的生活習慣と社会人基礎力の育成	・学習指導や生活指導を通して、向上心や自己肯定感を高められるように努める。④⑤⑥	B	B	・進路活動など授業以外でもICTを活用し、個に応じた指導に役立てる。
		・卒業後の進路を見据えて、基本的生活習慣を認識させつつ、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身に付けさせる。③④⑤⑥	B		
	進路に応じた学力の向上	・授業第一とし、アクティブ・ラーニングの手法や ICT を活用するなど、授業の工夫をすることによって、思考力、判断力、表現力をさらに伸ばし、生徒が自ら学ぶ意欲を引き出せるように努力する。①②⑥	B	B	
	進路指導の充実	・進路ガイダンスや課外授業、面接指導、個別面談を実施し、希望する進路の実現に向けた指導を行う。⑤⑥⑧	A	A	

※ 評価規準：A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった